

令和5年度

応神中学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 基礎的基本的な学力の定着と思考力の育成を目指した学習指導の改善
- ② 主体的に学習に取り組む意欲を育てる指導の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	校長 山口 麻里	教頭 谷口 早代
赤澤 三佳	1年主任 山下 真弘	教務主任 中山美香子
	2年主任 山内 道明	研修主任 原久枝
	3年主任 川尻 隆之	

校長

山口 麻里

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

職員会議・生徒指導委員会・学力向上検討委員会等で常に生徒の実態を話し合い、共通理解を図る。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○計算問題などの基礎学力が身についてきた。また、漢字の読み書きの力がついてきた。 ●学力の二極化があり、学力の低い生徒の基礎基本の徹底が課題である。	・基礎的基本的な知識や技能を確実に身につけることができる。 ・正しい言葉で文章を読んだり書いたりできる。 ・教師の説明や発表者の意見をしっかりと聞くことができる。	・各教科で小テストを継続的に実施し、知識の定着を図る。また、こまめに宿題を課し、復習の機会を確保する。 ・授業で前時の振り返りや本時の学習内容の確認を行う。 ・テストをファイルに閉じさせ、エラズノートを活用させる。	・前の授業で使った同じパワーポイントなどを使って振り返り、前回の学習とつながりやすいようにする。 ・エラズノートを提出させることにより、確実にテストのファイル閉じとエラズノートの活用を促進させる。	・似たような内容の小テストを何度もしたり、週末などにプリントや習った範囲のワークの宿題を増やしたりすることで復習をすることができている。 ・振り返りなど、パワーポイントを使ってすることで、教師の説明を、ほとんどの生徒が顔をあげて真剣に聞いている。	・小テストや宿題の確認を継続して行うことにより、復習の習慣をつける。 ・エラズノートも継続して作り、小テストなどでエラーも修正したり、自分の苦手分野を知って、より対策したりできるような手立てを講じる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝読書の習慣が付き、自ら進んで読書をする生徒が増えている。そのため学力の要となる読解力が向上しつつある。 ●短い画像や動画に慣れ、長い文章を読みとり自分の意見や考えを書くことが苦手な生徒が見受けられる。	・資料やグラフを読み取り、変化や特徴が理解できる。 ・根拠を明らかにして自分の考えを他人に説明したり、文章に書いたりすることができる。 ・タブレットを用いて必要な情報を選択し、プレゼンをまとめ、級友に紹介することができる。	・授業やテスト、または宿題で資料やグラフの読み取り問題を増やす。 ・ペア学習やグループ学習で生徒の発言や活動の時間を確保するとともに、様々な考えを引き出したり、思考を深める発問や授業構成を工夫する。 ・タブレットを用いて、情報を取捨選択できるように工夫させる。	・ペアを変えて意見交換の機会を増やすことにより、様々な意見を取り入れる。 ・要約や思考問題に時間をとるなど、しっかりと自分の意見を考える時間をとることで、よりよい課題解決を目指す。	・授業中に、文章を読んで要約し、タブレットを用いて自分の考えを書き込んだりしてじっくり考えることができている。 ・ホワイトボードを用いて意見を出し合い、互いの意見をまとめる際に思考を深めることができている。 ・タブレットを用いて必要な情報を用いて構成し、プレゼンできている。	・全教職員で、タブレットの活用については学びの機会を持ったが、今後は、更に効果的な活用方法を共有する機会を設ける。 ・要約など、生徒がじっくり文章と向き合っている様子を見て、ペアやグループで共有して他人の考えを知ることができる機会を増やす。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝読書の習慣が付き、自ら進んで読書をする生徒が増えている。また、授業をまじめに受け、授業規律が身についてきている。 ●授業の忘れ物、宿題の未提出がある生徒がいる。	・各教科とも授業中に私語がなく、授業に集中できている。 ・忘れ物がなく、宿題を確実に提出できる。 ・計画的な家庭学習の習慣が身についている。	・指導内容を工夫し、一人一人が授業に主体的に取り組めるような活動を入れる。 ・忘れ物チェックや宿題のチェックを確実に行う。	・思考し、グループ活動や発表など表現する活動を増やすことで主体的に学べる場面を増やす。 ・家庭学習調べなど、生活委員が呼びかけを行い、生徒同士での確認の機会をもつ。	・表現活動を増やすことで、一人一人が主体的に取り組んでいる様子がある。 ・生徒同士で呼びかけ合い、確実に提出日を守り、家庭で着実に学習できている生徒が増えている。	・家庭学習が定着し、習慣化できるように、宿題チェックや呼びかけを引き続き行う。 ・発問や指示を工夫するなど授業改善に努める。

令和5年度 学力向上ロードマップ



